

第3回『大学受験志望校選定に関するアンケート』 <志願者・保護者 計2,724名 回答>

- 相談相手は、「予備校・塾の先生」が1位。「高校の先生」を抜く。
- 参考にする情報は、「大学のHP」が54%で1位。情報収集はWebが中心に。

受験料支払いやネット出願サービスを提供する株式会社オプト・ジャパン(本社:東京都新宿区、代表取締役 柳田 謙治)は、2015年度大学入試の志願者・保護者を対象とした、第3回『大学受験志望校選定に関するアンケート』を実施し、集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。本アンケートは、当社が提供する「E-支払いサービス」*利用時に実施し、志願者1,170名、保護者1,554名、合計2,724名から回答を得ました。

※「E-支払いサービス」とは

大学・短大、大学院、附属学校、小・中・高校、専門学校等の受験料(入学検定料・入学選考料)を、クレジットカードや全国約44,000店舗のコンビニエンスストア等を利用して、24時間365日、いつでも支払い・申込みができるサービスです。銀行窓口の営業時間外でも支払いができる点や受験者・保護者がそれぞれのニーズに合った支払い方法を選択できる点などを評価いただいております。

2015年度入試(2015年4月入学)現在、導入校は261校。2015年度の利用件数は約30万件。

【アンケート調査概要】

実施期間:2015年1月8日～2015年2月28日

調査方法:サイト内で受験料支払い手続き完了後、任意で回答

調査対象者:「E-支払いサービス」利用者(志願者・保護者)

有効回答数:志願者1,170名、保護者1,554名、合計2,724名

【ポイント】

■全体では約半数が「5校以上」受験。関東地方は約6割が「5校以上」受験し、東北地方の約3倍に (Q1)

⇒全体では、「5校以上」が47.0%、「4校」が20.5%、「3校」が18.1%となりました。約半数が5校以上受験、8割超が3校以上受験している結果となりました。地方別では、受験校数が最も多いのは関東で、約6割(58.4%)が「5校以上」と回答。東北の20.9%と比べると、3倍近い差が出ました。

■第1志望校の決め手は「教育内容の充実」や「設備・雰囲気」。国立大学でも「知名度」が重視される傾向に (Q2)

⇒志願者、保護者ともに、1位「教育内容が充実している」、2位「学校の設備・雰囲気がよい」、3位「知名度が高い」となり、2013年度、2014年度のアンケート結果と同様でした。国立志願者、保護者では2014年度より変化が見られ、「知名度が高い」が約5%上昇。およそ4割(39.5%)が志望校の決め手と回答しており、国立大学でもイメージが重要であることがうかがえます。

■志望校選定の相談相手は「予備校・塾の先生」へシフト。男子は3年連続で「誰にも相談していない」が1位 (Q3)

⇒全体でみると、1位「予備校・塾の先生」19.9%、2位「高校の先生」19.8%でした。2014年度は、1位「高校の先生」22.0%、2位「予備校・塾の先生」18.9%で約3%の差がありましたが、今年度はわずかながら「予備校・塾の先生」が上回りました。男女別にみると、男子志願者の1位は「誰にも相談していない」21.4%となり、3年連続で1位となりました。

■半数以上が「大学のHP」を参考。「受験情報Webサイト」の割合が高まり、Web上での情報収集傾向に (Q4)

⇒全体でみると「大学のHP」54.2%、「大学案内等の大学発行物」38.1%、「大学のオープンキャンパス」29.5%となりました。2014年度と比較すると、「大学案内等の大学発行物」は40.4%→38.1%、「大学のオープンキャンパス」は31.9%→29.5%と減少。一方「受験情報Webサイト」は23.7%から26.0%と増加し、わずかながらWebでの情報収集に伸びがみられました。

※調査の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

※過去のアンケート結果は、オプト・ジャパンHPよりご覧いただけます。

(2013年度: <http://www.optjapan.com/blog/news-release/36/> 2014年度: <http://www.optjapan.com/blog/news-release/129/>)

【会社概要】

社名:株式会社 オプト・ジャパン

設立:1990年5月11日

代表者:代表取締役 柳田 謙治

URL: <http://www.optjapan.com/>

資本金:8,612万円(2015年5月現在)

従業員数:18名(2015年5月時点)

所在地:東京都新宿区西五軒町1-1 西五軒町ビル [TEL] 03-5261-9791 [FAX] 03-5261-9792

事業内容:入学検定料収納代行に関するシステム開発・運用等 主要株主:三菱総研 DCS 株式会社 (<http://www.dcs.co.jp/>)

【本件に関するお問合せ先】

株式会社オプト・ジャパン

広報担当:西出(ニシデ)

TEL:03-5261-9791

広報代行:株式会社アネティ

担当:岡崎・真壁

TEL:03-6421-7397

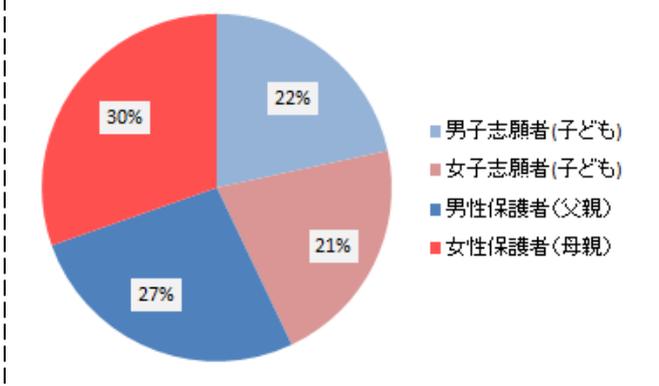
E-mail: okazaki@anety.biz

【 アンケート調査 集計結果 (抜粋) 】

※比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。

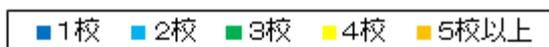
そのため、単数回答においては、合計が100%にならない場合があります。

● 回答者の属性



● 受験校数

Q1. 何校受験しますか(予定を含む)? 保護者の方は、わかる範囲でお答えください。(単数回答)



地域	1校	2校	3校	4校	5校以上
全体	4.7	9.7	18.1	20.5	47.0
北海道	4.7	27.9	32.6	11.6	23.3
東北	7.0	13.9	33.0	25.2	20.9
関東	4.6	6.5	13.2	17.3	58.4
中部	3.8	12.0	22.6	26.7	34.9
近畿	5.2	17.9	25.5	25.5	25.9
中国	4.5	11.9	22.4	35.8	25.4
四国	2.4	14.6	19.5	12.2	51.2
九州	5.6	12.1	27.4	22.6	32.3

(%)

・全体では、「5校以上」が47.0%、「4校」が20.5%、「3校」が18.1%となりました。約半数が5校以上受験、8割超が3校以上受験している結果となりました。

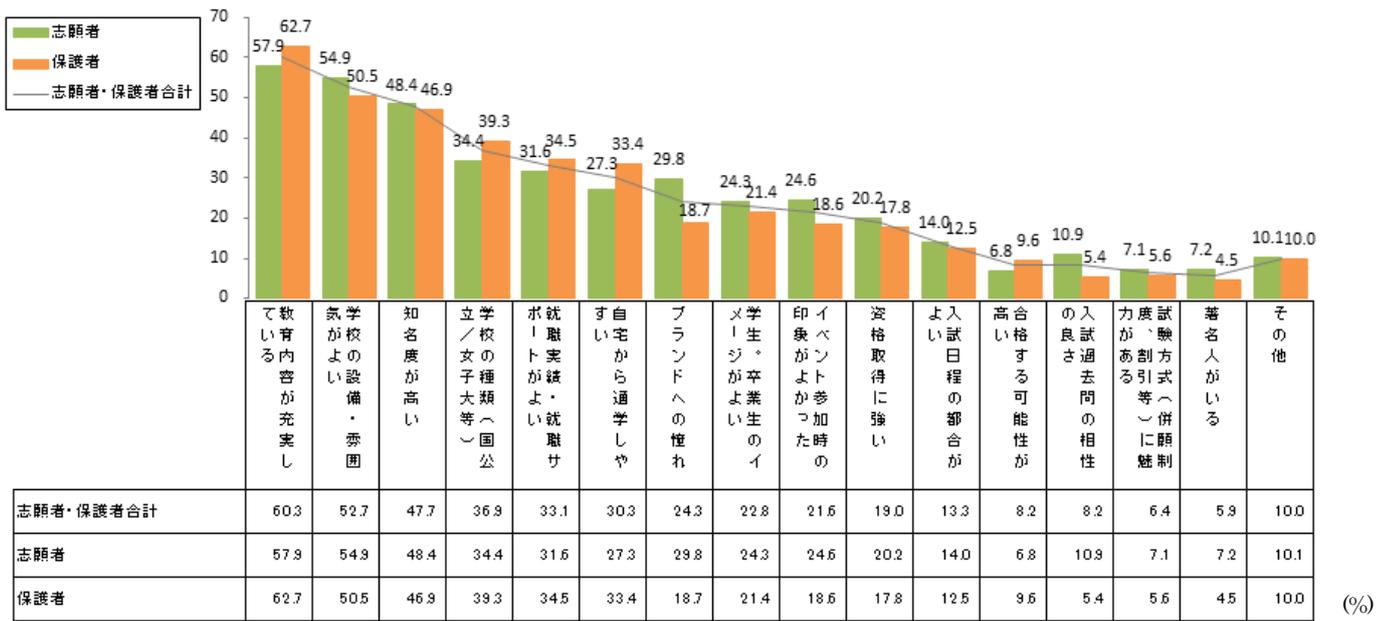
・地方別で比べてみると、受験校数が最も多いのは関東で、約6割(58.4%)が「5校以上」と回答。「5校以上」の割合が最も低い東北の20.9%と比べると、3倍近い差が出ました。

・「5校以上」と回答した割合が2014年度と比べて減少している地域が多い中、関東は2014年度が55.9%と元々高い上に、今年度更に上昇しました。

・2015年度入試では数学・理科が新学習指導要領に基づく出題に移行し、全教科が新学習指導要領に移行する2016年度の浪人は避けたいという心理が働く一方で、地方では家庭の経済状況も考慮して、安全志向がさらに強まったものと思われます。

●志望校選定の決め手

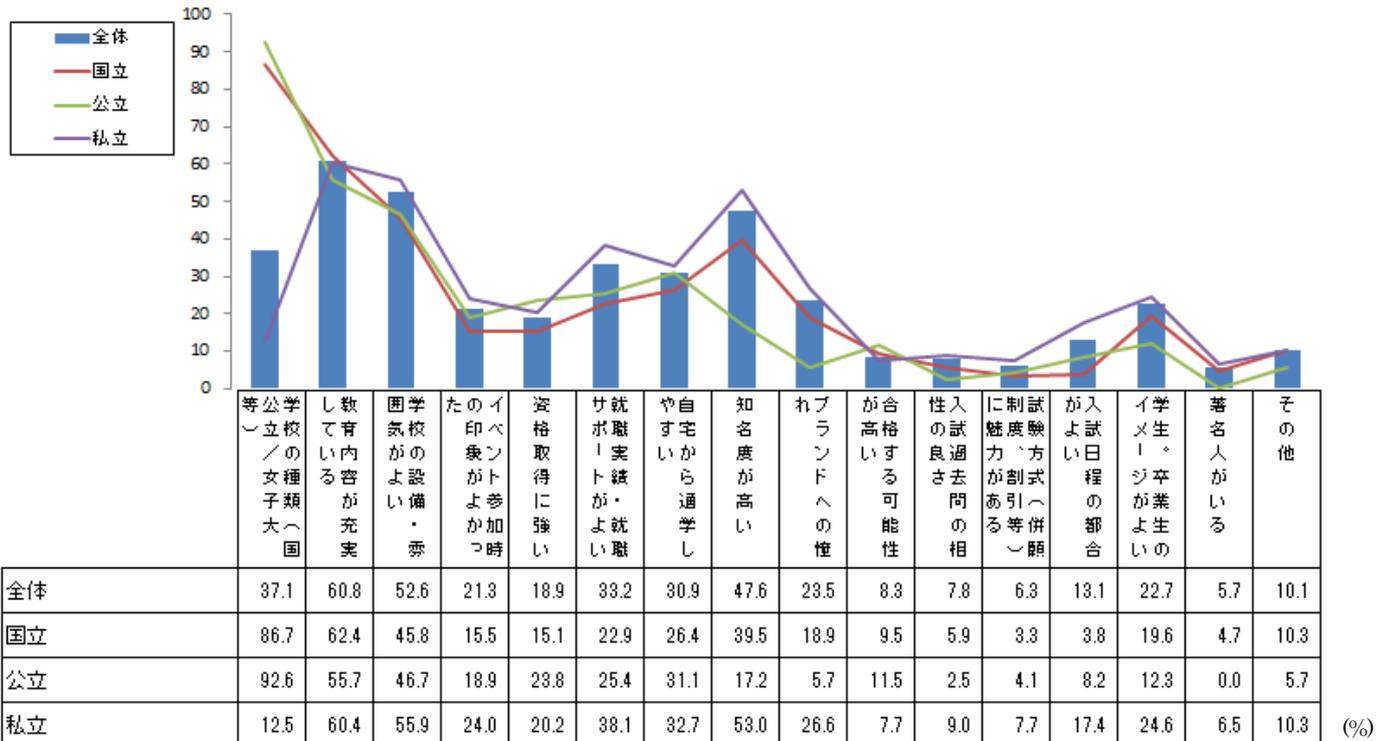
Q2. 第1志望校の決め手は何ですか？(複数回答)



・志願者、保護者ともに、1位「教育内容が充実している」、2位「学校の設備・雰囲気がよい」、3位「知名度が高い」となりました。上位3項目は2013年度、2014年度のアンケート結果と同様でした。

・志願者、保護者ともに、約6割が「教育内容が充実している」を選択し、教育内容を重視していることがうかがえます。

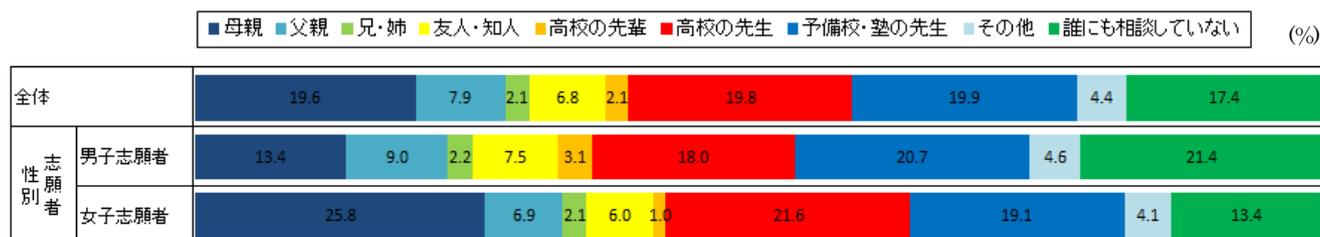
・志願者と保護者で最も差が大きかったのは、2014年度に引き続き「ブランドへの憧れ」でした。しかしながら、2014年度は差が約13%だったのに対し、今年は約11%となり、わずかながらその差が縮まりました。



・第1志望校の区分(国立・公立・私立)別にみると、国立・公立では1位「学校の種類(国公立/女子大等)」、2位「教育内容が充実している」、3位「学校の設備・雰囲気がよい」となり、私立では1位「教育内容が充実している」、2位「学校の設備・雰囲気がよい」、3位「知名度が高い」となりました。志望する大学の区分により、回答が異なりました。

・2014年度と比較すると特に国立で変化がみられ、「教育内容が充実している」が約8%減少。「学校の設備・雰囲気がよい」や「知名度が高い」が約5%増加し、国立であってもイメージに大きく左右されるようになってきていることがうかがえます。

Q3. 今年受験する大学を決定する際に、誰の意見を一番参考にしましたか？(単数回答)※志願者のみ回答

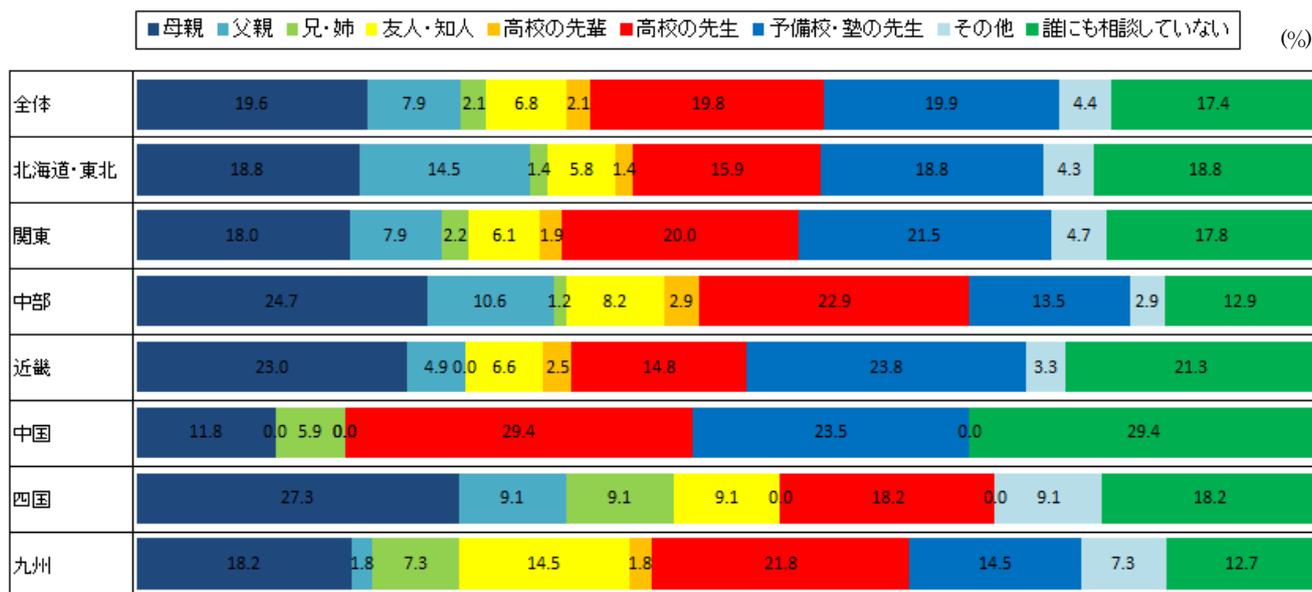


・全体で見ると、1位「予備校・塾の先生」19.9%、2位「高校の先生」19.8%、3位「母親」19.6%でした。2014年度のアンケート結果では、1位「高校の先生」22.0%、2位「予備校・塾の先生」18.9%でおおよそ3%の差がありましたが、今年度はわずかながら「予備校・塾の先生」が上回りました。また、2014年度の3位は「誰にも相談していない」18.9%で、1位～3位までの順位が全て変わる結果となりました。

・男女別に見ると、男子志願者は3年連続で「誰にも相談していない」が最も多い結果となりました。一方、女子志願者は「母親」が最も多く、2013～14年度で最も多かった「高校の先生」は2位でした。

・2014年度と比べて、全体・男女別ともに「高校の先生」と回答した割合が、低くなる傾向がみられました。

・「高校の先生」から「予備校・塾の先生」へのシフトは、新学習指導要領への移行が始まったことで志願動向が変わることが予想され、大学受験全般の傾向を把握している予備校・塾への信頼が高まったものとみられます。

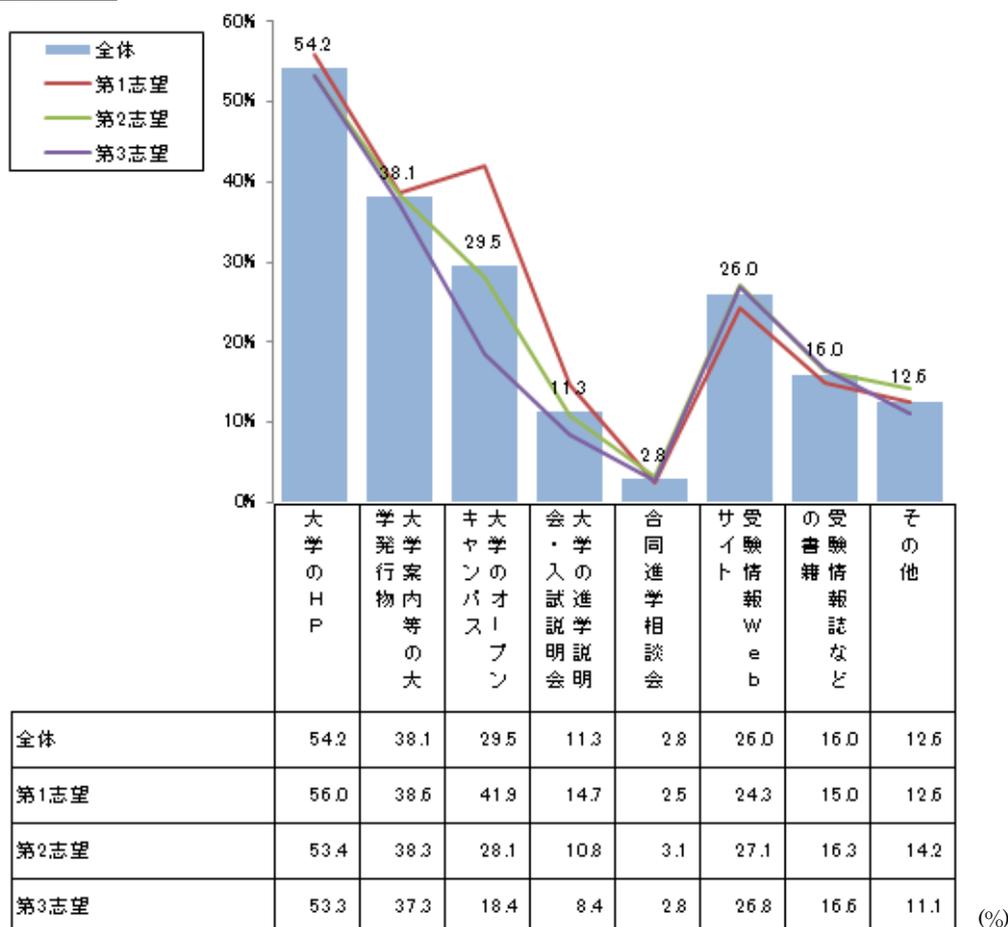


・地方別に比べてみると、どの地方も「母親」、「高校の先生」、「予備校・塾の先生」、「誰にも相談していない」が多い傾向ですが、地方ごとに異なる部分がありました。

・例えば、「父親」は全体で7.9%なのに対し、割合が高い北海道・東北では14.5%、割合が低い中国では0.0%、九州では1.8%となりました。また、「友人・知人」は全体で6.8%なのに対し、九州は14.5%。「誰にも相談していない」は全体で17.4%なのに中国地方は29.4%となり、大きな差がみられました。

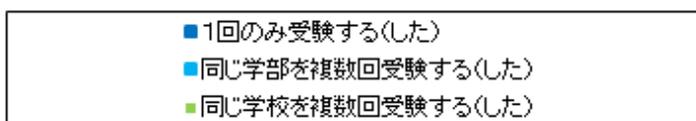
Q4 出願校を決定する際に、以下のうち、参考となった情報(偏差値以外の情報)の入手先を3つ以内で選択してください。

(複数回答)

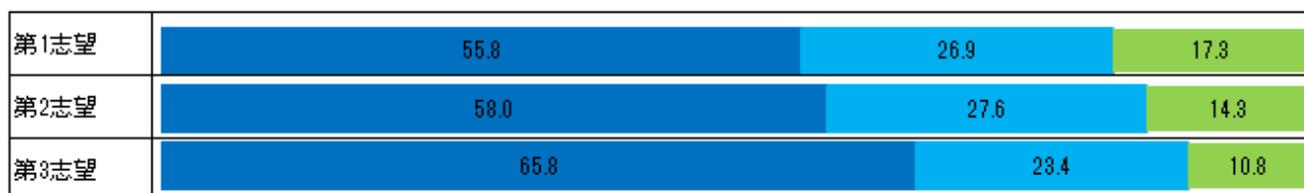


・全体でみると「大学のHP」54.2%、「大学案内等の大学発行人物」38.1%、「大学のオープンキャンパス」29.5%となりました。
 ・2014年度と比較すると、全体で「大学案内等の大学発行人物」は40.4%から38.1%、「大学のオープンキャンパス」は31.9%から29.5%とそれぞれ減少しましたが、「受験情報Webサイト」は23.7%から26.0%と増加。わずかな変化ではありますが、Web上での情報収集に伸びがみられました。特に、「受験情報Webサイト」は志望順位別にみても、第1志望は22.4%から24.3%、第2志望は25.2%から26.8%、第3志望は25.2%から26.8%となっており、志望順位に関係なく上昇傾向にあります。

Q5. 今年度の受験で、出願校を複数回受験しますか(しましたか)?



(%)

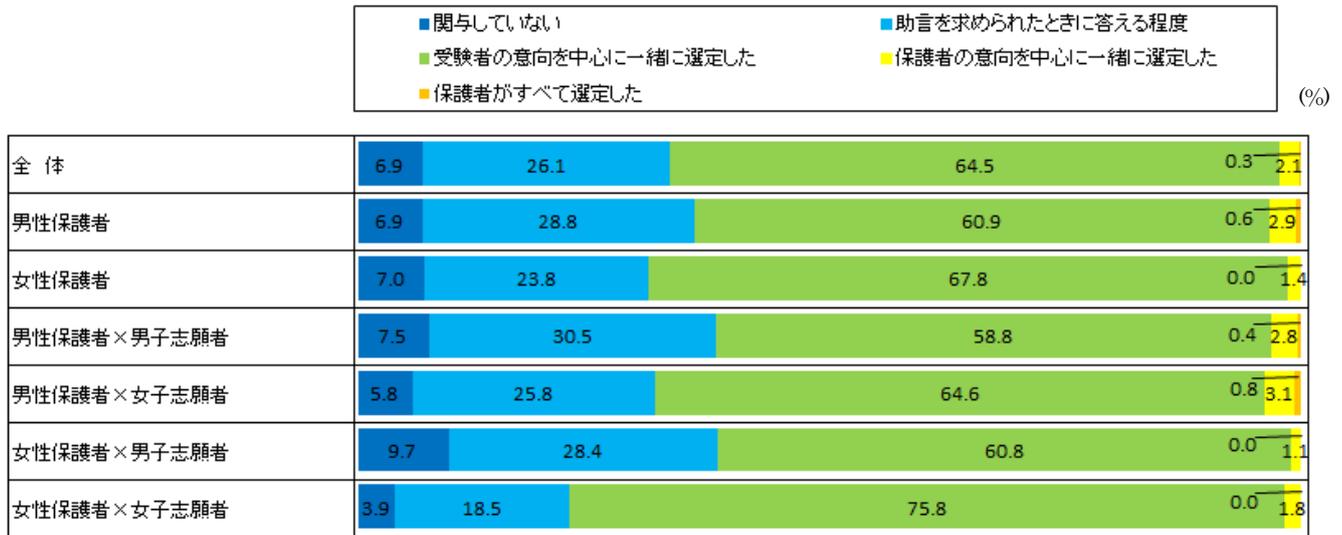


・志望順位が高いほど、同じ学校・同じ学部を複数回受験する傾向にあり、第1志望校への憧れやブランド志向の強さがうかがえる結果となりました。

・2014年度と比べると、「1回のみ受験する(した)」と回答した割合が、第1志望は44.0%から55.8%、第2志望は53.4%から58.0%、第3志望は59.1%から65.8%とそれぞれ高くなっていることがわかりました。受験費用を安く抑えたり、その分で他の大学にチャレンジしようとしたりしたものとみられます。

● 受験への親の関与

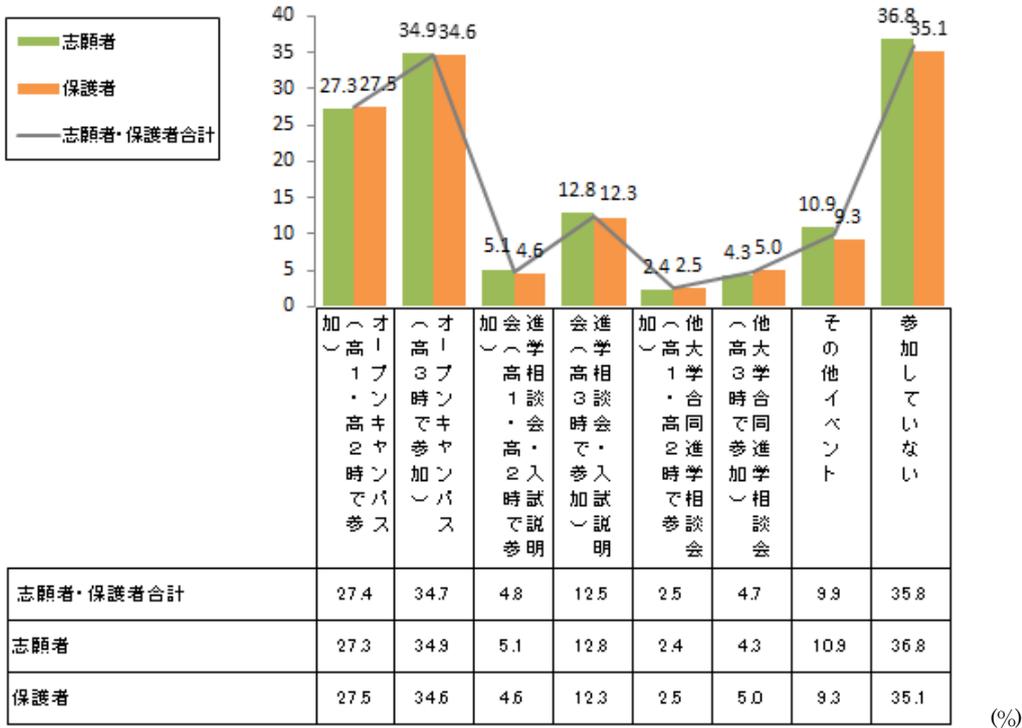
Q6. 志望校の選定について、どの程度関与しましたか？(単数回答)※保護者のみ回答



- ・男性保護者(父親)、女性保護者(母親)ともに、「志願者の意向を中心に一緒に選定した」が6割以上(男性保護者60.9%、女性保護者67.8%)でした。2013年度、2014年度のアンケート結果でも「志願者の意向を中心に一緒に選定した」が6割以上で、保護者の積極的な関与が続いていることがわかりました。
- ・特に女性保護者は、「志願者の意向を中心に一緒に選定した」が約7割(67.8%)で2014年度より約5%上昇し、男性保護者よりも積極的に関与していることが考えられます。
- ・保護者、志願者の性別ごとの組合せでみると、女性保護者×女性志願者において、「志願者の意向を中心に一緒に選定した」が75.8%で高い割合となりました。男性保護者×男子志願者の58.8%と比べると、約20%もの差が出ました。
- ・また、「関与していない」では、男性保護者×男子志願者は7.5%、女性保護者×男子志願者では9.7%で、全体の6.9%よりも高い割合となり、男子志願者への関与の方が低いことがわかりました。

● 大学イベントの参加

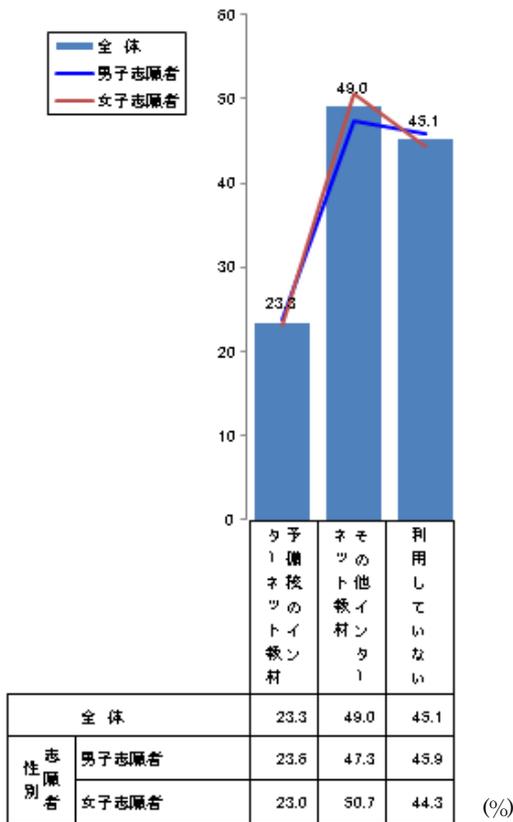
Q7. 今年受験する第1志望校に関して、どのイベントに参加しましたか？(複数回答)



- ・志願者・保護者合計で見ると、「参加していない」は35.8%にとどまり、回答者の7割近くがイベントに参加しているという結果となりました。
- ・参加したイベントをみると志願者、保護者ともに、1位が「オープンキャンパス(高3時で参加)」、2位が「オープンキャンパス(高1・高2時で参加)」、3位が「進学相談会・入試説明会(高3時で参加)」となりました。
- ・オープンキャンパスへの参加割合が高く、実際に学校の雰囲気を確認したいという意識がうかがえます。「高大接続」の観点からも、オープンキャンパスは既に不可欠になっていると思われます。

● オンライン学習利用状況

Q8. インターネットなどのオンライン学習で利用したことがあるものを選択してください。(複数回答) ※志願者のみ回答



・全体では、「予備校のインターネット教材」が 23.3%、「その他インターネット教材」が 49.0%、「利用していない」が 45.1%となり、半数以上の志願者がオンライン学習を利用したことがある結果となりました。

・2014 年度と比べてみると、「利用していない」と回答した割合が、全体は 40.5%から 45.1%、男子志願者は 39.7%から 45.9%、女子志願者は 41.3%から 44.3%となり、男子志願者を中心に「利用していない」割合が高くなりました。

・スマホの普及に伴い、インターネット教材を手軽に利用できる環境が整う中で、実際には「利用していない」と回答した割合が増える結果となりました。

● 総括

本アンケート結果から見てくる志願者・保護者の動向について、教育ジャーナリストの渡辺 敦司氏に総括していただきました。

－ アンケート結果から見てくる志願者動向 －



教育ジャーナリスト
渡辺 敦司 氏

2015 年度入試は数学と理科で新課程に基づく出題が始まり、2016 年度入試の新課程全面移行を控えていたことで、予備校・塾の情報を頼るなど受験生(志願者)心理にも影響があったようです。一方で景気回復基調の恩恵が地方になかなか浸透しない中、保護者に負担をかけまいと地元志向・安定志向や受験校を絞る傾向にある地方が増えているようです。

今どきの受験生らしく「受験情報Webサイト」を参考とする割合が高まっていますが、今後「高大接続改革」の加速化が予想される中、表面的な情報に踊らされないか心配です。女性保護者の関与の強まりについては、保護者世代と現在とでは大学事情も相当変化していることに注意が必要です。

高大接続改革はもともと大学教育の改革が発端であり、各大学に教育と入試をセットで変えてもらおうというのが主眼です。ネット時代だからこそ、これからの社会に必要とされる、正確で必要な情報を取り出して自ら判断する力が、受験生にも求められます。

[プロフィール] ●1964 年、北海道生まれ。横浜国立大学教育学部卒。

教育専門紙「日本教育新聞」記者を経て、1998 年よりフリー。